



竹ぼうきをつくらう

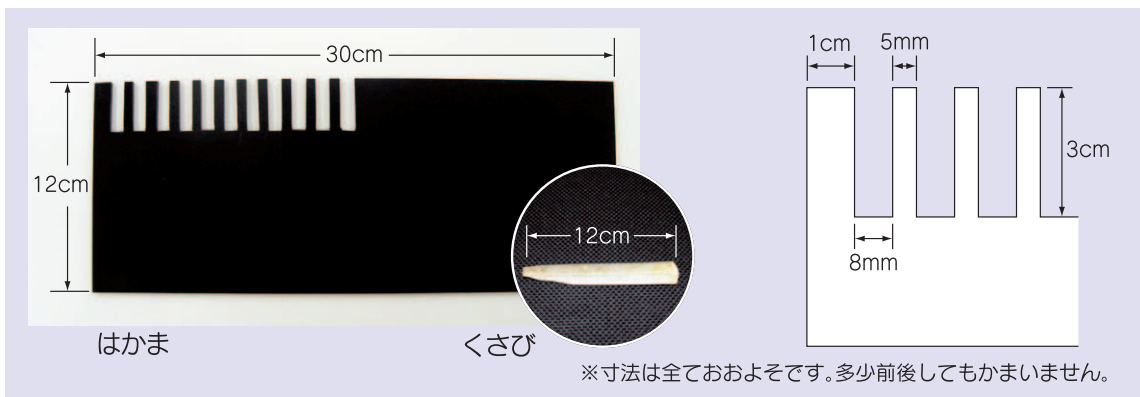
タケは、毎年間引かないとどんどん勢力を広げていきます。タケの成長は速く、すぐに樹木の上まで葉を広げます。すると、日光が当たらなくなった樹木はやがて枯死し、林は荒れてしまいます。かつての里山では、民家のそばにマダケやハチク、モウソウダケなどの竹林をつくり、タケ材やタケノコを得て上手に利用し、竹林を管理していました。

この活動のねらい

竹ぼうきづくりを通して、タケを利用することが竹林の管理や維持につながり、里山の環境を整えることを理解する。

準備するもの

- ・竹の細い枝（冬に伐採したマダケの乾燥したものが適している）
- ・ほうきの柄（90～120cmの竹棒） ・針金（直径1mm程のしぼりやすい太さ）
- ・ドライバー ・剪定ばさみ ・ペンチ ・竹でつくったくさび（12cm程度の長さ）
- ・はかま（ホームセンター等で販売されている厚さ3mm程度のゴム板を加工してつくる。）



事前準備

- 1 枝の長さごとに枝A～Dの束をつくる。
 - ・枝Aは90～95cm位の長さで10～12本の束をつくる。ほうきの柄に密着させるので、下から第二節まで小枝を取り、枝全体が内側を向くように削っておく。枝Bは70～80cmの長さで10～12本の束、枝Cは55～65cmの長さで10～12本の束、枝Dは35～45cmの長さで20本の束とする。

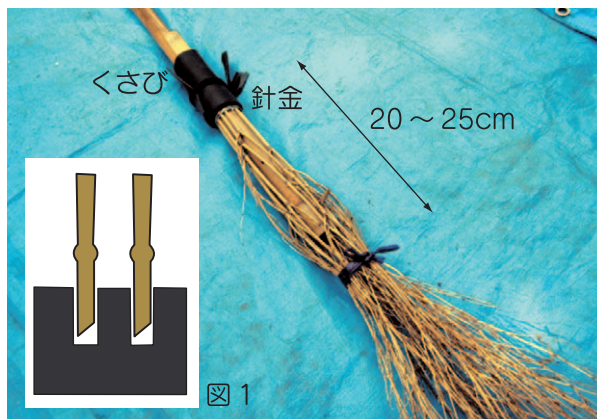


- 2 枝B～Dは、針金で固定した束に差し込むので、節を削っておくとよい。

竹ぼうきをつくろう

1 ほうきの柄に枝Aを固定する。

- ・ ほうきの柄の太い方を 20 ~ 25cm 残し、はかまを柄に巻き付ける。はかまは、切れ目が柄の先端に向く方向にし、ひもでしばる。はかまがずれないようにくさびを打つ。
- ・ 右図1のように巻き付けたはかまの切れ目に枝Aを差し込み、針金で固定する。枝Aの先端をしばっておくと、固定しやすい。固定後、はかまをはずす。



2 枝Bをすき間に差し込み、固定する。

- ・ しばってある枝Aのすき間に枝Bを1本ずつ差し込む。差し込む方向は、小枝が内側を向くようにする。
- ・ 10cm 程度離れたところを針金で強く固定する。(ア)

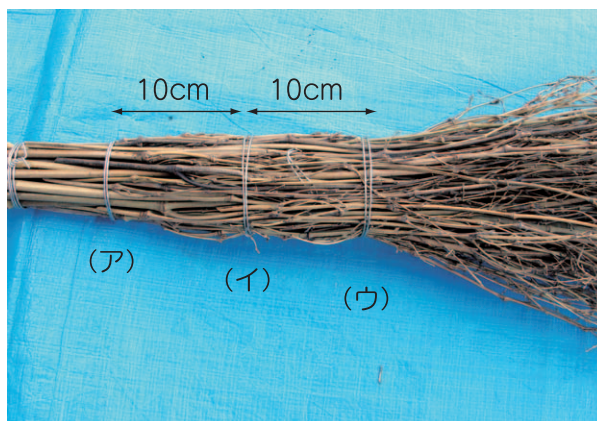


3 枝Cをすき間に差し込み、固定する。

- ・ 枝Bのすき間に枝Cを差し込む。2で固定した針金に通すだけでよい。今回はすき間の数だけ差し込むのではなく、右図2のように全体のバランスを整えながら、適当な本数を差し込む。
- ・ 10cm 程度離して針金で固定する。強くしばると、全体が細くなってしまうので、適度な強さでしばる。(イ)

4 枝Dを全体の形を整えるように差し込み、固定する。

- ・ 全体のバランスを整えながら枝Dを差し込み、10cm 程度離れたところを強く固定する。(ウ)



まとめ

- ・ つくった竹ぼうきを使って落ち葉かきや堆肥づくりを行うイベントなどを計画しましょう。
- ・ 参加者に落ち葉かきでつくった堆肥を提供したり、堆肥の中にあるカブトムシの幼虫を配布したりして、年間を通した活動に発展させてみましょう。
- ・ 里山の管理とは、里山の自然を利用することでもあります。竹林の間伐材を材料にして生活用具をつくり、それを使って里山を管理するというサイクルを伝えましょう。

資料提供：七郷里山会